

研究タイトル:

身体投射



氏名:	沖本 正憲 / OKIMOTO Masanori	E-mail:	okimoto@tomakomai-ct.ac.jp
職名:	教授	学位:	修士(教育学)
所属学会・協会:	日本認知科学会, 日本認知言語学会		
キーワード:	身体投射, 身体メタファー, 身体性, 身体部位詞, 物体部分詞, 擬人化, 身体尺度		
技術相談 提供可能技術:	<ul style="list-style-type: none"> ・身体モデルの応用 ・テキストの執筆・編集 		

研究内容: 人間の身体を物体に投射する現象: 認知言語学的分析

人間の身体全体を物体全体に写像することに基づく言語現象（「身体投射」と呼ぶことにします）に限定し、人の知的システムとの関係から写像の理由を解明しています。そこでは、身体投射は「モノのヒト化」を通して人間の生活環境を主体的に理解しようとする認知手段であると考えています。たとえば、惑星探査機「はやぶさ」のスタッフは小惑星イトカワをラッコに見立て、普段は緯度や経度という用語を用いずに「ラッコの左脇腹／お尻」という表現で簡略的に地理を把握していました。この見立てるという行為は、物体の構造を馴染みのある人間ないしは動物の身体構造に置き換えることによって、わかりやすく理解するという人間の認知手段です。人間の身体部位を用いた比喩表現は日常的に見られます。たとえば、「釘の頭」（日）は、「釘頭」（中国語）、tête d'un clou（仏語）、head of a nail（英語）のように、同じ物体部分が他の言語でも同様の形式で示されることがあります。ただし、本研究では部分的な身体部位の意味拡張とは異なるケース、すなわち、身体部位詞を一つの物体の部分詞として複数同時に意味拡張する例（「椅子の脚・肘・背（leg/arm/back of a chair）」「車の鼻・顔・ヘッドライト・ボディ（car's nose/face/head-light/body）」「壺の口・首・耳・胴（mouth/neck/ear/trunk of a pot）」などを対象としています。このような事例の存在は、人間（動物）の身体を物体に投射することによって物体に新たな意味を提供し、その意味に基づいて人間環境を能動的に理解しようとする事実を反映したものだと考えています。つまり、身体投射が物体の構造理解だけではなく、物体に人間の属性を転写することを可能にし、



それゆえ、人間の権威（社長の椅子、玉座）を物体に付与したり、物体に対する愛着（長年使っている道具）を表出したりすることができるのです。したがって、T型フォードには「ブリキのエリザベス（Tin Lizzie）」、エッフェル塔には「鉄の貴婦人（La dame de fer）」のような愛称がつけられているのです。このような私の研究は、国内外のいくつかの論文や専門書の参考文献として取り上げられています（左図は、Okimoto, M. (2016) The head/shoulder/flank/foot of a mountain から）。

提供可能な設備・機器:

名称・型番(メーカー)	